

ごみを減らして、資源を生かす暮らしへ

— めざそう!ごみ減量と資源循環 —

これまでは「ごみを減らす」ことが重視されてきましたが、これからはもう一歩進めて、「ごみの中の資源を生かす」ことが大切です。一人ひとりの意識と行動が、まち全体の環境と未来を変えていきます。捨ててしまう前に、まずは「分けて出す」ことから、もう一度始めてみませんか？

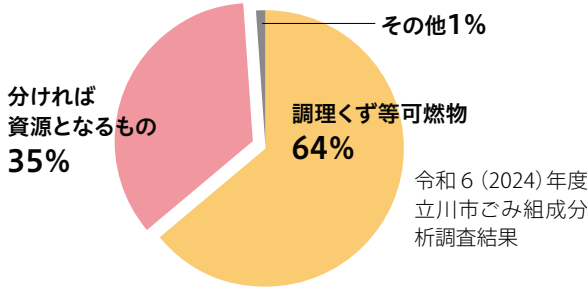
問ごみ対策課・内線6754



燃やせるごみに入れていませんか?もう一度分別を

家庭の「燃やせるごみ」の中には、本来なら資源として再利用できるものが多く含まれています。令和6(2024)年度立川市ごみ組成分析調査結果によると、燃やせるごみで出されたうち約35%が減量化・再資源化可能なごみで(右グラフ)、次の順に多く混入していることが分かりました。燃やせるごみに入れる前に資源ごみとして分別しましょう。

燃やせるごみ(家庭ごみ)の
平均排出割合(重量%)



1 プラスチック9% 〔減量化+再資源化〕

→水で汚れを軽く洗い、においと色をある程度取り除くことでプラスチックとして出せるので、再資源化につながります。



2 資源化可能な紙類(雑誌みなど)7% 〔減量化+再資源化〕

→紙資源(新聞・折込チラシ、段ボール・茶色紙、雑誌・本・雑誌み、牛乳等紙パック)は分別し、それぞれの収集日に出すことで再資源化につながります。



3 未利用食品6% 〔減量化〕

→食品ロス対策として、食品を買いすぎない、食べられる量を把握する、無駄なく食べる、賞味期限・消費期限を把握する、などの方法があります。



生ごみはしっかり水切りしましょう

生ごみの約80%が水分です。水切りをするだけで、ごみの重さと量を大きく減らすことができ、ごみを処理する際に少ないエネルギーで燃やすことができます。



市の取り組み

「食品ロスの削減」

食品ロスを出さない取り組みとして「食べきり」や販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」の呼びかけのほか、フードシェアリングサービス「おたすけタベスケ立川」を導入しています。このサービスは、市内の飲食店や小売店(協力店)が、食品ロスになりそうな食品や食材を安く出品し、それらを購入したい利用者が閲覧・購入予約できるサービスです。

計画的な買い物や調理を心掛け、できることから取り組み、食品ロスを減らしていきましょう。

「おたすけタベスケ立川」
はこちら



Android



iOS

「ベランダたい肥づくり」

市内から集められたせん定枝と食品残さから「たい肥の素」を生産しています。その「たい肥の素」に、家庭で出た生ごみを混ぜることにより、ベランダなどでオリジナルのたい肥を作ることができます。生ごみの減量化につながるとともに、たい肥は園芸や野菜作りに役立ちます。「たい肥の素」を希望する方は、ごみ対策課にお問い合わせください。

夏季のごみ収集作業についてのお願い

暑さによる熱中症予防のため、収集作業員は休憩やこまめな水分補給を行いながら作業に当たります。そのため、通常よりごみの収集に時間がかかる場合があります。ご理解・ご協力をお願いします。



- ごみは、収集日当日の午前8時までに出してください。
- 収集日に複数品目の収集がある場合は、品目ごとに複数回に分けて収集します。また、収集車にごみが積みきれない場合は、一度ごみを降ろしてから、再び収集に向かいます。収集が終わるまで、しばらくお待ちください。
- ごみの収集作業員は、厳しい暑さの中で収集作業を行います。熱中症予防のため、コンビニ等で水分補給などの休憩を取ることがあります。ご理解をお願いします。

物価高への総合対策

燃やせるごみ専用袋を全戸配布します

市は、物価高に対する独自施策として、ささやかながら広く支援を図るために、「燃やせるごみ専用袋」を無料で全戸配布します。申請は不要で、所得による制限はありません。

10月中旬を過ぎても届かない場合は、ごみ対策課計画推進係にお問い合わせください。

問ごみ対策課計画推進係☎(531)5518(土曜・日曜日、祝日を除く、午前8時30分～午後5時15分)

- 対象 7月1日現在、立川市に住民登録がある世帯
- 配布物 燃やせるごみ専用袋(10リットル。ロール式ではなく、平袋型で配布)
- 配布数 ・1人～2人世帯＝30枚入り1セット
・3人以上世帯＝30枚入り2セット
- 配布時期 8月下旬から順次(1か月程度を予定)
- 配布方法 郵送(ゆうパケットで郵便受けに配達)

